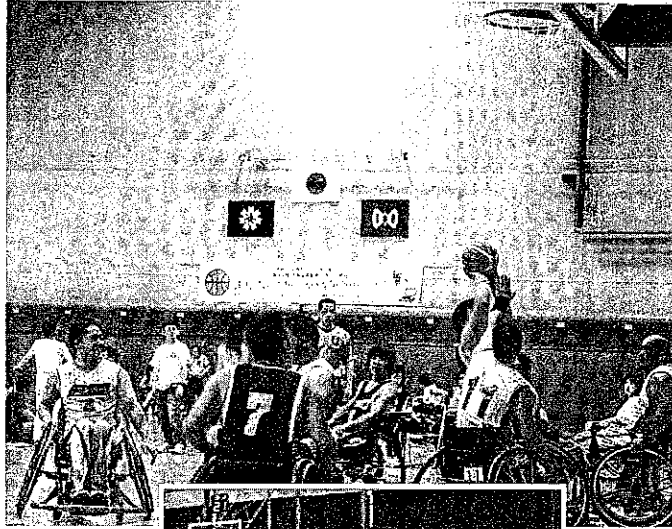


激突 車いすバスケット

美幌で8チームが熱戦

北海道障害者
スポーツ大会

巧みな操作、だいご味満喫



第44回北海道障害者スポーツ大会の車いすバスケットボール大会が6日、美幌町スポーツセンターで開かれ、全道から8チーム52人の選手が出場

初のモバイルライブ中継も

し、車いすを巧みに操作してゴールを次々に決めると会場からは大きな声援が送られた。

車いすを巧みに操りシュートを放つ全道障害者車いすバスケットボール大会（上）と全国初のモバイルライブ中継に携わるスタッフら

美幌会場は国内初のモバイルライブ中継が実施され、町内外のスタッフ30人が開会式から決勝まで全9試合をインターネッで完全生中継した。ゲームの模様や勝利チームのインタビュー、会場の雰囲気などを国内をはじめ全世界に発信した。

車いすバスケットはコート幅の広さもゴールの高さも通常のバスケットボールと同じ。唯一、違うのはダブルドリブルがなく、車いすを2回こいで1回ドリブルをすればトラベリングなどの反則が取れない。選手たちは手ブレーキを巧みに利用し、ターンやストップ、ダッシュを組み入れ、車いすを激しくぶつけ合いながら熱戦を繰り広げた。全道障害者スポーツ大

会は美幌、網走、北見、大空など網走管内6市町で障害区分に応じて16競技が行われ、選手、役員、ボランティアなど約4千人が大会を支えた。

美幌新聞

2006年8月8日(火)